

子ども・学校危機支援チーム

私たちは、東日本大震災が発生した2011年3月に緊急集会を開き、「日本学校心理士会 東日本大震災子ども・学校支援チーム」を立ち上げました。2017年5月「日本学校心理士会 子ども・学校危機支援チーム」と名前を変え、幅広く活動しています。

- ①NASP（アメリカ学校心理士会）と連携して、自然災害にあった子どもを援助するための、「教師や保護者」向けの資料の作成と配布を行っています。資料は、ホームページからダウンロードできます。
- ②被災地では現地リーダーの学校心理士が中心となり、子どもと学校の支援を行っています。また、被災地の学校に学校心理士を派遣しています。
- ③避難児童生徒（転校生）を迎える学校を支援しています。
- ④震災後の子ども・学校の援助について、研修会を行っています。



平成28年 熊本地震（益城町）



被災地小学校長と面談



日本学校心理士会 副会長

岡田 守弘

「学校心理士」資格をもつ者は、生徒指導・教育相談・進路指導担当、特別支援教育担当、健康教育担当、教育相談コーディネーター、スクールカウンセラーなどとして、子どもの「学校生活の質」の維持・向上をめざします。

「学校生活で苦戦する子どもの援助」や「すべての子どものために学級・学校づくりの促進」において、ぜひ学校心理士を活用してください。

学校心理士はチーム援助を大切に、「チーム学校」の担い手として、さらには、福祉・教育のさまざまな分野での活躍が期待されています。

学校心理士になるには

資格要件

- 大学院で学校心理学関係の科目を修得し、修士課程・専門職学位課程を修了し、学校心理学に関する専門的実務経験を1年以上有する方
- 学部卒業で学校心理学に関する専門的実務経験を5年以上有する方

まず、当該年度の「手引き及び申請書」と「学校心理学ガイドブック（最新版）」をお買い求めください。資格申請期間は毎年5～6月、筆記試験実施は8月です。

審査は、(1)提出された書類、(2)筆記試験、(3)ケースレポートまたは研究業績について行われ、(1)～(3)を総合して合格・不合格が判定されます。

詳しくはホームページをご覧ください

<http://gakkoushinrishi.jp>



一般社団法人 学校心理士認定運営機構

日本学校心理士会

〒113-0033 東京都文京区本郷 2-32-1 BLISS 本郷ビル3F

TEL 03(3818)1554 FAX 03(3818)1588

E-mail:office@gakkoushinrishi.jp

支部一覧（2017年9月1日現在）

北海道支部	東京支部	静岡支部	和歌山支部	福岡支部
北東北支部	千葉支部	愛知支部	兵庫支部	佐賀支部
山形支部	神奈川支部	三重支部	岡山支部	長崎支部
宮城支部	新潟支部	滋賀支部	広島支部	熊本支部
福島支部	長野支部	京都支部	徳島支部	大分支部
茨城支部	北陸支部	大阪支部	香川・高知支部	
埼玉支部	岐阜支部	奈良支部	愛媛支部	

すべての子どもの
学校生活を支援する

学校心理士



一般社団法人 学校心理士認定運営機構

Japanese Organization of Certifying and Managing
School Psychologists(JOSP)

日本学校心理士会

Japanese Association of School Psychologists(JASP)

学校心理士は、学校における「心理教育的援助サービス」の専門家

—教育相談・特別支援教育のコーディネーター、スクールカウンセラーとして—

学校心理士の役割

心理教育的アセスメント

子どもの問題状況にかかわる情報を収集、教育的支援や教育計画の立案・修正などの資料を作成する

子どもへのカウンセリング

個別、または集団への働きかけを通して問題解決、危機の回避や対処を援助する

教師・保護者へのコンサルテーション

子どもの問題を解決するため、子どもを取り巻く人たちへ働きかける

学校組織へのコンサルテーション

学校全体として対処していく方法を模索するため、組織へ働きかける

学校教育の場で子どもを取り巻くさまざまな状況において、専門的な心理教育的援助サービスが求められるようになり、1997年度から「学校心理士」の資格認定が行われるようになりました。これまでに誕生した学校心理士は6,600人を超え、心理教育的援助サービスの専門性を活かして、教育相談・特別支援教育のコーディネーターやスクールカウンセラーとして、学校教育現場で活動しています。また、教育委員会や教育センター、発達支援センターなどで活動している方、教育委員会の依頼を受けて相談業務に従事している方もいます。「学校心理士」資格は心理教育的援助サービスに強い教育職（教師）と学校教育の専門性の高い心理職（公認心理師）のキャリア発達を支えます。



一般社団法人学校心理士認定運営機構 理事長
日本学校心理士会 会長

石隈 利紀

学校心理士認定運営機構は、2011年4月1日から一般社団法人として、新しくそして力強く踏み出しました。学校心理士の基本的な特徴は、一人ひとりの子どもに焦点をあてながら、学級・学校のすべての子どもの学校生活を援助するところにあります。

学校心理士は、子どもたちがもつ多様性（発達の様子、言語・文化など）を尊重し、共生社会を推進します。そのために「チーム学校」を促進し、学校・家庭・地域の連携をより強くします。学校心理士は、「すべての子どもたちと学校」の日常と危機を援助します。

学校心理士を支えるさまざまな活動

スキルアップや研鑽、会員同士の情報交換ができるよう、情報提供・研修・発表の場を設けています。

会員誌・年報の発行

全国大会や各支部で開催される研修会や特長のある活動について紹介した会員誌（年2回）、さまざまな活動や研究成果をまとめた年報をお届けします。



全国大会の開催

年1回、学校心理士として取り組むべきテーマを掲げ、協調や研鑽を深める場として、全国大会を開催します。講演・ポスター発表・研修会など、学校心理士の活動を支援する具体的実践的な内容を提供しています。



各支部研修会の開催

全国に設けられた各支部でも独自に研修会を開催しています。各支部内の交流をはかることはもちろん、話題になっているテーマを取り上げ、外部からも講師を招くなど、工夫をこらしています。

国際活動

第40回 国際学校心理学会 東京大会

ISPA2018 Tokyo

会期：2018年7月25日（水）～28日（土）

会場：東京成徳大学、放送大学

2018年7月25日～28日、国際学校心理学会（ISPA）が東京で開催されます。学校心理士認定運営機構・日本学校心理士会は、日本学校心理学会、日本応用教育心理学会とともに、本大会を協賛しています。27・28日は、日本学校心理士会の全国大会も同時に開催します。

学校心理士が活躍するステージ

教員として

地域連携によるキャンパスエイド活動と学校適応を目指した「心理学」授業について

県立高等学校教師 嶋志田 和子

フレックススクール鹿島灘は、平成17年度に定時制課程単位制（三部制）高校に改編し、学校適応を目指した様々な取組を続け、13年目を迎えました。特徴の一つは、キャンパスエイド（茨城大学の学生）による援助活動です。フリースペースに常駐するキャンパスエイドは、進路や学習等の悩みを抱えた生徒の相談にのります。生徒にとって、キャンパスエイドは、話し相手（メンタルフレンド）としての気軽さがあり、姉や兄のような身近な存在です。またスクールカウンセラーも来校します。

二つめは、「心理学」授業です。年間授業計画に沿って、演習や講義の授業で「心理学ノート」（石隈利紀・嶋志田共著）を使用します。自己理解、他者理解等を深め、人間関係のスキルアップを高めることがねらいです。

三つめは、魅力ある学校行事がたくさんあります。清掃ボランティアと飯盒炊飯、花いっぱい運動、アイススケート等、奉仕活動や体験活動を通して、社会貢献の育成をめざしています。

カウンセラーとして

子どもに直接カウンセリングするだけでなく、子どもを取り巻く人たちにも働きかけます

スクールカウンセラー 半田 一郎

私は、平成7年度からスクールカウンセラーとして仕事をしています。一般的には、スクールカウンセラーというと、相談室で子どもにカウンセリングをしているシーンを思い浮かべることが多いと思います。しかし、私の場合、必ずしもそうではありません。子どもと直接話すよりも、子どもとかかわりのある先生方や保護者と一緒に、具体的な支援方法を考えて話し合うことの方が多くのように思います。

学校という場合は、子どもにとって毎日の生活の場であり、多くの人と関わり合って過ごしている場です。学校で多くの大人・子どもと関わり合いながら子どもは成長していくものです。

学校心理学は、そういった学校という場のあり方を踏まえ、子どもの成長をどのように支えていくかについての学問体系です。そして学校心理士は、多職種が連携する学校現場でチーム学校の一員として学校心理学をもとに心理教育的な援助サービスを実践しています。

「チーム学校」や「多職種の連携」と聞くと堅苦しく感じますが、ひとりの子どもを中心として多くの大人が関わり合って、その子どもの成長を支えているということです。学校という日常の場で多くの大人と関わり合いながら子どもを支援することは、学校心理士の最も得意とする子ども支援だと思えます。